

# 日本鐵鋼協會第二十回通常總會記事

開會日時 昭和 10 年 4 月 2 日 (火) 午前 11 時 25 分  
 會 場 東京市麹町區丸ノ内三丁目四番地帝國鐵道協會々館二階  
 大講堂  
 出席者 230 名 委任狀 302 通  
 振鈴と共に一同着席を了し先づ水谷理事立つて一場の挨拶次記の  
 如く述べらる。

○理事(水谷叔彦君) 只今から第二十回の通常總會に移ります。野  
 田會長は先日來御病氣でございまして御出席出來ませぬで、年上  
 の理事の私が會長の代理を致すことになりましたからお含みを願  
 ひます。本日の正員の御出席数は 232 名でありまして、委任狀を  
 得て居りますのが 302 通、であります。議事に入ります前に野田  
 會長の開會の辭を私より申述べます。

## 開會の辭(昭和九年本邦製鐵鋼業の趨勢)

會長 工學博士 野 田 鶴 雄

鐵鋼協會第二十回の總會に當り、昭和九年の我國鐵鋼業  
 を顧みますのに、前年に比して更に一段の進歩を遂げたこ  
 とは疑ひを容れません。即ち昨年の總會に於いて會長が明  
 かに述べられました様に、一昨昭和 8 年の鐵鋼界は著しく  
 回復し、其生産高は未曾有の多額に上りましたが、昨年は  
 インフレ財政々策に因り一般産業が好轉し、軍需工業が殷  
 盛を加へましたのみならず、過去三年間の不況に際して行  
 はれた整理改善の効果が漸く現はれました結果、前年以上  
 の飛躍的發展を見ましたことは各種統計に付いて考ふるも  
 明瞭であります。

先づ銑鐵に付いて見ますのに

	昭和 8 年	昭和 9 年(概算)	比較増減
生産高	1,585,053	1,934,400	349,347
輸入高	647,699	623,200	△ 24,499
内 滿洲銑 印 度銑 其 他	460,846	418,200	△ 42,646
	172,060	202,200	△ 30,140
	14,793	2,800	△ 11,993
合計	2,232,752	2,557,600	324,848

△印は減

昨年の生産高は 193 萬 4,000 噸に上り、前年に比して約  
 34 萬 9,000 噸の著増であります。之に對して滿洲銑、印  
 度銑等の輸入高は 62 萬 3,000 噸となりましたが、昭和 8  
 年に比すれば 2 萬 4,000 噸を減するに至りました。

斯かる銑鐵の増産は鋼塊の需要増加に基くもので、昨年  
 の鋼塊(鑄鋼を含む)の生産高を調べますのに

	昭和 8 年	昭和 9 年(概算)	比較増減
鋼塊生産高	3,201,424	3,823,600	622,176
塊及錠輸入高	107,729	90,200	△ 17,527
計	3,309,153	3,913,800	604,647

△印は減

この表の如く 382 萬 3,000 噸を超え、昭和 8 年より約  
 62 萬 2,000 噸を増して居ります。塊及び錠等の海外から  
 の輸入高は前年に比して 1 萬 7,000 噸を減じて 9 萬噸に

止まりましたが、鋼塊の生産高が斯かる急増を見たのは内  
 地鋼材の需要が遠かに旺盛となつた爲めであることは言を  
 俟ちません。

従つて昭和 9 年の我國鋼材の生産高を前年に比しますの  
 に

	昭和 8 年	昭和 9 年(概算)	比較増減
生産高	2,789,987	3,296,300	506,313
輸入高	403,222	374,300	△ 28,922
供給高	3,193,209	3,670,600	477,391
輸出高	267,614	401,400	133,786
再輸出(内地)	119	不明	△ 119
輸出超過	135,489	27,100	162,589
消費高	2,925,476	3,269,200	343,724

△印は減

昨年は 329 萬 6,000 噸で、前年より 50 萬 6,000 噸の  
 増加を示して居ります。

以上の如く昭和 9 年の銑鐵、鋼塊、鋼材の生産高は何れ  
 も前年に比し約 2 割増に當り、其内、鋼材は昭和 4 年の 6  
 割 3 分を増加し、鐵鋼業の好況を如實に物語つてゐる譯で  
 あります。

尙鋼材の輸出入に付いて注目すべき點は前年 13 萬 5,000  
 噸の輸入超過を見ましたのに對し、前年は滿洲に仕向けら  
 れた鐵道及び建築用鋼材を始めとして、南洋方面への薄鋼  
 板類等の輸出が多量に上りました結果、2 萬 7,000 噸の輸  
 出超過に轉じましたことで、數量としては僅少に過ぎませ  
 んが、斯かる趨勢は賀すべき現象と云はねばなりません。

外國との比較 斯くの如く我國の鐵鋼業が昨年更に飛躍  
 的發展を遂げましたことは相共に慶賀に堪へませんが、他  
 面之を諸外國と比較すれば尙多大の徑庭あるを免れません  
 即ち昨年、鋼塊及び鑄鋼の世界生産高は 8,000 萬噸で、  
 從來の最高記録を示した昭和 4 年の 1 億 2,000 萬噸の 6

割7分に當り、其内、アメリカは2,500萬噸、3割2分で、依然第一位を占め、ドイツ、イギリス、ロシア、フランスの順で之に次ぎ、日本は辛うじて第六位を持するに止まつて居ります。而も我國の生産高は世界生産高の5分に過ぎませんから海外の主要生産國に及ばざること遠いと云はねばならぬ譯で、單なる一時の小成に安んずることは到底許されぬ所であらうと思はれます。

**製鉄鋼設備** 翻つて我國の製鉄鋼設備を顧みますのに、昨年中銑鐵、鋼又は鋼材の何れか1萬噸以上を生産したと想像される工場の數を擧げて見ますと

1. 銑鐵、鋼及鋼材を生産するもの	6
(此内現在一貫作業を行ふものは4)	
2. 銑鐵のみを生産するもの	4
3. 鋼のみを生産するもの	1
4. 鋼及鋼材を生産するもの	17
5. 鋼材のみを生産するもの	9

で、昭和10年以降は二、三新設工場の目論見がありますが其規模は何れも大なるものではない様に見受けられます。

他方昭和9年以後の製鉄鋼設備に関する増産計畫を一瞥しますに。製鋼爐は22基、年産能力98萬噸、銑鑛爐は3基、53萬噸、壓延機は64基、88萬噸で、既に完成せるものと然らざるものとに分ければ次の通りであります。

昭和9年に完成したもの(滿洲を含まず)

製鋼爐(平爐)	7基	年産能力	18萬噸
壓延機	21基	"	40萬噸

昭和10年以降に完成する豫定のもの

銑鑛爐	3基	年産能力	53萬噸
製鋼爐	15基	"	80萬噸
壓延機	43基	"	48萬噸

水谷理事議長席に移り議に入る。

#### (一) 議 事

イ、昭和九年度會務報告

ロ、昭和九年度收支決算報告

ハ、昭和十年度收支決算報告

ニ、任期満了評議員(半数)改選(投票開票)

○議長(水谷叔彦君) 次に議事に移ります。議事に移りますのに(一)議事の「ニ」の任期満了評議員(半数)改選(投票開票)、を時間省略の爲に別室に於てどなたかお立會の上の開票して戴きまして議事を進行したいと思ひますが御異議ございませぬか。

「異議なし」と呼ぶ者あり

○議長(水谷叔彦君) それでは甚だ御苦勞様でありまするが、加藤榮君と田中清治君のお二人に開票委員を願ひます。

#### イ、昭和九年度會務報告

## 結 語

之を要するに

1. 昨年我國の鐵鋼界は新記録を示して、略々自給の域に達しましたのみならず、始めて輸出超過の端緒を開きましたこと、並に

2. 從來我國に於いては製作が不可能と目されました大口徑の引拔鋼管乃至帶鋼製造設備に関する新規工場の建設又は、銑力板工場の増設等各品種に亘り自給を目指して進歩を遂げましたこと

の二點は同慶の至りでありまするが、其反面に於いては、輸入が、銑鐵、合金鐵及び塊並に銑等は72萬噸、屑鋼は144萬噸で、金額にして合計9,800萬圓に上つたのみならず、數量の上では輸出超過に轉じた鋼材も金額で計算すれば1,000萬圓の輸入超過を示し、之を加算した鐵鋼の入超額は1億800萬圓を超えるに至りました。此外、鐵鋼を材料とする各種機械類其他の輸入額は約1億1,000萬圓に達しますから、昭和9年に我國が鐵鋼關係に於いて海外に支拂つた金額は約2億2,000萬圓に上る譯で、眞の自給自足を期するには今後尙多大の努力を要するのであります。

斯かる事態に處して斯業の改良發達を圖るには、一面資金の潤澤なる供給を必要とすると共に、他面鐵鋼に関する一切の問題の研究調査を進めることが刻下の急務でありまして、本會の盛大を加ふるに従ひ、此方面に於いて本年も一層の進展が遂げられるとを切望して已まぬ次第であります。

簡單ながら之を以て開會の辭に代へることと致します。

是で野田會長の開會の辭を終りました。(拍手起る)

○議長(水谷叔彦君) 續いて議事に移ります。議事「イ」の昭和九年度會務報告であります、此會務報告は皆お手許に印刷して差出してありますが、是は毎月會誌に掲載したものでありますから一々申上げませぬ、其中の二三の點だけ私より申上げます。第一は會員の總數でありまするが、是はお手許にありまする通り、昨年と比べまして名譽會員に五人増加、維持會員に三人の減、賛助員に三人の減になつて居ります、それから正員に2名の減、准員に96名の増加、合計93名の増加であります。此正員及賛助員の減は名譽會員に移られましたから起り、又維持會員は製鐵合同等の爲に起りました譯であります。それから昨年の4月第十九回總會に於きまして服部賞牌を山岡武君、賞金を加藤孝治君外6名のお方に贈呈致しました。昨年の10月滿洲大連に於ける大會に於きまして梅根常三郎君に香村賞牌を贈呈致しました。それから本年の2月25日の評議員會に於きまして鐵鋼業に關して功績、名望ある河村曉君、鹽田泰介君、白石元治郎君、牧田環君、向井哲吉